

# 取 扱 説 明 書

## 屋 内 消 火 栓

( 1 号 消 火 栓 )

機器を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

尚、この取扱説明書は、最終顧客様までお渡し願って、日々お客さまの目の届くところに保管していただきますようご配慮の程、お願いします。

株式会社 立 売 堀 製 作 所

## はじめに

正しい操作方法をご理解頂くため、この取扱説明書を必ず最後までよくお読みください。


- \* 屋内消火栓（40 A又は50 A）は、基本的に2人以上で操作するもので、一人がノズルを取り出し火点に向かい、他の1名がポンプ起動とバルブ操作を行った後、放水補助を務めるものです。

## [ 格 納 品 ]

ノズル1本・ホース2本（1.5 m）/消火栓バルブ1個当り

## [ 操 作 手 順 ]


- 1) 押釦スイッチを入れる。（押釦部を強く押し込む。）


	<p><b>注 意</b></p> <p>訓練を実施する場合において、火災報知機が消防署と連動しているケースがあるので、確認してください。</p>
---	---

- 2) 一人が消火栓箱の扉を開けホースを延長し、放水姿勢をとる。

ノズル（ホース架）を少し振り出し、右腕でホース全体をかかえる様にして消火栓バルブ側からノズル側にかけて取出してください。

左手でノズルを持って火点に向かってください。

	<p><b>危 険</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放水による反動力があります。 放水時には前傾姿勢を取り、ノズルは必ず両手で保持してください。</li> <li>・ 可変噴霧ノズルを使用する場合、放水パターンの切り換えは片手での操作となり大変危険です。 腕全体で抱え込むように支えて操作してください。</li> <li>・ バンド付ノズルを使用される場合、バンドは運搬用ですので放水時の補助には使用しないでください。</li> <li>・ 人に向けて、放水しないでください。 人に当たると重傷、死亡にいたる場合もあります。</li> </ul>
---	--

	<p><b>注 意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホース破損等の危険があるので、キンク（折れ）させないで、出来るだけ真っすぐ延ばしてください。</li> <li>・ ノズルを先に取出しホース架のクシが外れ、ホースが全て落ちてしまった場合、その時は、そのままノズルを持って火点に向かい、ホースを延長してください。</li> <li>* ホースは呼称40 mm（又は50 mm）× 1.5 mが2本接続されています。</li> </ul>
---	---

- 3) 他の1名がノズルを保持している人の合図を基に消火栓バルブを開いて放水する。

バルブの開閉方向は反時計方向へ回すと開きます。



### 危険

ノズルを保持している人が振り回されるおそれがあるので、急激な通水、加圧はしないでください。

### [ 復旧方法 ]

- 1) バルブを閉じる。

この時ポンプは作動を続けています。全ての放水が終了した時点で、ポンプ室の停止ボタンを押してください。

- 2) バルブからホースを取り外し（ノズルをホースから取り外す）、ホース内部の残留水を抜取って、よく乾燥させる。

（ホースを長くご使用して頂くために必要なことです。）

- 3) バルブにホースを取り付ける。



### 注意

安易な接続は離脱し事故につながる為、バルブとホース及びホースとホースの接続は、“カチッ”と音がするまで差し込み、必ず引っ張って抜けないことを再確認してください。

- 4) ノズル架の金具とクシをセットする。

- 5) ホースをクシに順次掛ける。

- 6) ホースの差し金具（オス側）にノズルを接続する。

- 7) ノズルをノズル掛け金具にセットして、扉を閉じる。

以上

## 保守点検チェックリスト

\* 該当項目について確認をお願いします。

年 月 日

	項 目	確 認	備 考
外 観	・格納品が揃っているか		
	・各部、清掃		
	・変形、打傷、へこみ等の有無を確認		
	・塗装の剥離、サビ等の有無を確認		
	・各部パッキンの劣化の確認		
機 能	・バルブの開閉操作が容易か確認		
	・ホースの装着は容易か確認		
	・ノズルの装着は容易か確認		
	・漏水の有無を確認		
	・各部の取付ボルト・ナットは、緩んでいないか		

担当者 \_\_\_\_\_